

大学間 連携

近年、単位互換だけではなく、複数の大学が協力し人的・物的リソースの共有や教育研究機能の強化が行われている。加盟大学が取組む連携のかたちをここに紹介する。

昭和医科大学 (東京都)



多摩美術大学との包括連携協定 メディカルデザイン研究所設立

昭和医科大学は2024年5月、多摩美術大学との包括連携協定に基づき「昭和医科大学メディカルデザイン研究所 (Institute of Medical Design [IMD])」を横浜キャンパス内に設立した。同研究所は、両大学に蓄積された知見と経験を活用し、「医療と美術の連携による医療現場のQOL向上」に寄与することを目的としている。病院内の案内表示、照明、待合室などのデザインを工夫することで、来院者に安心感とリラックスできる環境を提供するなど、医療をデザインで支え、誰もが創造的で心身とも健康になれる場づくりを目指す。

四国大学 (徳島県)

四国大学、徳島大学、徳島工業短期大学、鳴門教育大学、神山まるごと高等専門学校に在籍する留学生と日本人学生がチームを組み、協力しながら各チームがゴールの札所を目指し、リレー形式で1番札所から23番札所を歩いて巡る文化・国際交流企画を「とくしま産学官連携プラットフォーム」事業の一環で実施した。徳島の文化や景色を体感しながら、大学や国籍を越えた若年層の交流を促し、地域の魅力の再発見と地域への定着を目指すものである。



国際交流しながら一国歩き遍路

福岡工業大学 (福岡県)



法政大学と学術連携協定

福岡工業大学は、教育研究活動の一層の充実と質の向上を図り、学術の発展と有意な人材の育成に寄与することを目的として、法政大学と学術連携協定を締結した。2024年3月18日、東京都の法政大学市ヶ谷キャンパスにおいて、協定締結式が行われました。法政大学は、国内屈指の伝統と研究力を誇る法学部・社会学部・理工学部をはじめ、15学部18研究科で意欲的な学生が学んでいる。この度の協定を通じて、同大学が実施しているグローバルPBLを中核とした学生交流をはじめ、両大学のリソースを活かした連携の充実を図っていく。

神戸学院大学 (兵庫県)



神戸親和大学と 合同卒論発表会など開催

神戸学院大学と神戸親和大学とは教育研究に関する包括連携協定を結び、講義の相互履修を実施するなど、各面で連携を深めている。神戸学院大学スポーツサイエンス・ユニットと神戸親和大学教育学部スポーツ教育学科は双方の大学を交互に会場にして毎年、合同卒業論文発表会を開催し、スポーツを科学的に分析する研究を紹介し合い、表彰も実施している。このほか、阪神・淡路大震災の体験を次世代につなぐためのイベントでも連携している。

帝京大学 (東京都)

国立大学への国内留学



2022年に新設された帝京大学の外国語学部国際日本学科では「世界の中の日本」をテーマとした授業を展開している。2年次前期に学科学生全員が留学するが、留学生たちは地方の5つの国立大学に4か月間「語学・文化研修」として国内留学し、日本語科目および文化研修科目を現地の学生たちと一緒に履修し、同大学の単位に互換。地域の方言や自然の美しさ、人々の温かさなど現地でない経験できない貴重な体験を積んで成長して帰ってくる。

北海道医療大学 (北海道)



星槎道都大学の包括連携協定

北海道医療大学は、2024年12月、星槎道都大学（北広島市）と包括連携協定を締結した。締結式は北広島市庁舎で執り行われ、星槎道都大学飯浜浩幸学長と同大学三国久美学長の署名により協定が締結された。同大学は2028年に北広島市Fビレッジ内に新キャンパスの設置を予定している。同市内に所在する2大学で連携・協力しながら、北広島市をはじめとする地域社会に貢献し、さらなる発展に寄与できるよう、さまざまな協定事業に取り組んでいく。

大阪工業大学 (大阪府)



広島国際大学との 連携教育

大阪工業大学では、2025年4月、工学部生命工学科に「臨床工学技士養成コース」を開設。生命科学から医工学まで、多様な分野の探究に役立つ豊富な設備・機器を揃える教育環境のもと、国家資格「臨床工学技士」の受験資格が得られるカリキュラムを編成し、同一法人で医療系学部を有する広島国際大学と連携した高度な実習を提供。医学と工学の両方の知識・技術を兼ね備えた医療機器のスペシャリストを養成する。

神戸学院大学 (兵庫県)



神戸学院大学現代社会学部の菊川裕幸講師とゼミの学生たちが昨年度に結成した任意団体「神戸田んぼ応援団」の主力メンバーとして神戸市立井吹東小学校の敷地内にある田んぼで児童の農業体験をサポートしている。6月の田植えから、7月の田んぼの生き物観察会、10月の収穫（稲刈り）まで児童と学生が一緒に汗をかき、11月には収穫した米を使って飯ごう炊さんを楽しむ。地球温暖化が農業生産に影響を与えることも児童に学んでもらう。

帝京大学 (東京都)

帝京大学八王子キャンパスで開講中の授業「質問力を磨く」を受講する学生と担当教員が、脱炭素化や環境問題の解決に向けた「森林プロジェクト」を実施、専門家のサポートのもと同大学内や横浜市内の放置林を再生する活動に取り組んでいる。国土の2/3の山林が荒廃している現状を変え、森と人との共生に向けた持続可能な社会づくりに挑戦中だ。ホームページでオープン教育リソース「グリーン基礎講座」を公開している。こちらをご覧ください。



森と人との共生をめざす

大学の



大学では、脱炭素社会の実現に向けて、知の創出や人材育成、地域との連携によるさまざまな取り組みが進められている。グリーントランスフォーメーション(GX)における技術革新と社会実装を推進する拠点として、大学への期待はますます高まっている。

福井工業大学 (福井県)



福井工業大学は超クルマ社会である福井県を舞台に、環境にも人にもやさしい移動のカたちを地域とともに考えている。シェアサイクルや電動キックボードなどの新たなモビリティを活用し、徒歩や自転車でも暮らせる圏域づくりを提案。誰もが「ここで幸せに暮らしたい」と思えるまちを目指し、「脱炭素」と「暮らしやすさ」の両立を地方から実践している。都市と交通の視点から、クルマ依存の社会構造を見直し、人と環境にやさしい未来を描いていく。



北海道科学大学 (北海道)

スマホが最適な省エネ 行動をお知らせしてくれる

北海道科学大学建築学科の平川秀樹准教授は、積雪寒冷地の建物の省エネをテーマとして、建物の断熱・気密技術や暖房用エネルギー消費量削減に関する研究を行っている。その研究成果の社会実装に向けて、スマホ向け「省エネ行動お知らせアプリ」の開発が、株式会社インプレとの共同研究を通じて行われている。フィールド試験に向けて開発中であるこのアプリは、外気温度や日照などの気象予報を参照して、室温調整やカーテンの開閉など、暖房費等の削減につながる最適な省エネ行動を通知してくれるものである。

福山大学 (広島県)



アマモ等の海藻は、二酸化炭素を吸収して炭素を貯留する（ブルーカーボン）能力が高く、地球温暖化防止への貢献に注目が高まっている。福山大学海洋生物科学科では、市や漁協、企業等と連携・協力しながら、教員と4年次生が地元の海岸でアマモの効率的な造成技術の確立を目指した調査研究を行っている。こうした取り組みを通して、環境保全や地域貢献の意識を持ち、社会で活躍する人材の育成を目指している。